

資料 2-1

平成 20 年度個体数調整実施計画

1. 捕獲目標頭数について

今後の捕獲計画を検討するため、平成 19 年度の捕獲実績を「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画第 2 期」資料編に示した生息数シミュレーションの方法を用いて、再計算した。再計算にあたっては、2007 年度の予定捕獲数を実績と入れ替え、計画開始後 3 年間で目標生息数になるように 2008 年度以降の捕獲予定頭数を変更した。

平成 20 年度の捕獲目標頭数を 95 頭（♂ 30 頭、♀ 55 頭、1 歳以下 10 頭）とする。なお、個体数調整の効果が最も高く顯れるメス以外に、オス及び 1 歳を捕獲対象としたのは生息数に対して高い捕獲圧をかけることにより個体群構成が偏らないようにするためである。

年度	捕獲数	生息数(年度末の値)
2007年	33(♂2、♀23、0歳1歳:8)	197
2008年	95(♂30、♀55、1歳以下:10)	141
2009年	70(♂50、♀10、1歳以下:10)	75
2010年	10(♂5、♀5)	70
2011年	10(♂5、♀5)	72

2. 平成 20 年度（2008 年度）の捕獲実施スケジュールについて

平成 14 年度より「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画」に基づき、個体数調整を実施してきた。捕獲手法としては、麻醉銃、集団捕獲わな（アルパインキャプチャー）、小型捕獲わな等である。平成 19 年度より前述の捕獲手法に銃器（装薬銃）が追加され、平成 19 年 12 月 1 日より 4 日間実施し 15 頭のシカを捕殺した。

来年度の捕獲実施スケジュール（案）を以下に示した。

- (1) 春期（旧ドライイブウェー閉鎖中（4 月連休前まで））に銃器（装薬銃）による捕獲を実施する。これまでの捕獲実績をみると、早春はシカの警戒心が強く、麻醉銃の射程距離内（約 25m 以内）まで近づくことが困難であるためと、この時期のメスジカは妊娠している個体が多いいため、被害軽減/個体数増加防止の観点から銃器（装薬銃）により捕獲することが効果的である。
また、捕獲作業回数を経るごとに人を警戒し、捕獲効率が落ちるため、麻醉銃による捕獲を実施する前に装薬銃での捕獲を実施することで、捕獲効率の向上が期待できる。
- (2) 旧ドライイブウェー開放期間は、装薬銃以外の通常の手法で捕獲を実施する。
- (3) 晩秋期に銃器（装薬銃）による捕獲を実施する。平成 19 年度と同様に旧ドライイブウェー閉鎖中（11 月下旬から）に実施する。

